

環境システム情報学研究室

こんな問題に取り組んでいます

持続可能な社会システムの実現を目的とした人間の社会・経済活動の把握、地域・地球環境への影響評価、及びこれらに必要な分析・統合手法の研究を行っています。

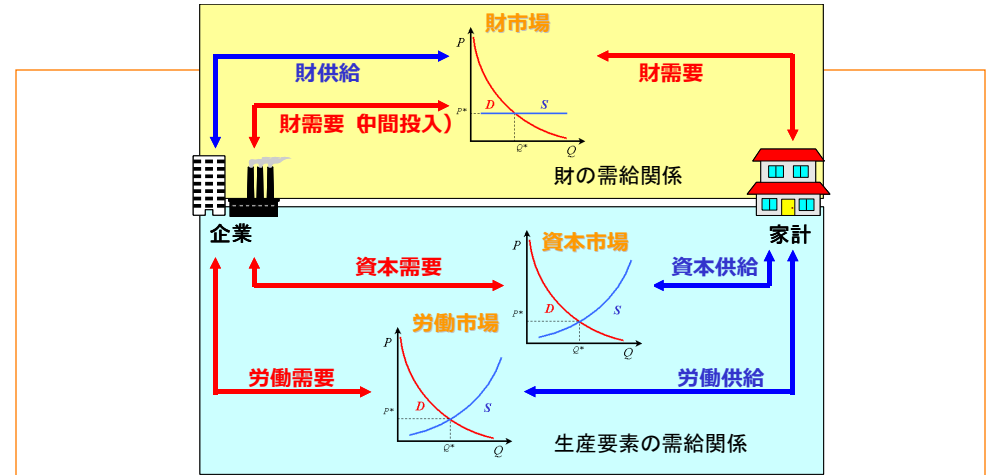
こんなことがわかってきました

温暖化対策の中期目標を達成するためには、どのような対策がどの程度必要かを知る必要があります。それは消費者がどの程度の負担を受け入れるかにも依存します。ここでの「どのような」「どの程度の」といった事柄を可能な限り、定量化しています。

研究の成果はこんな分野に活かされます

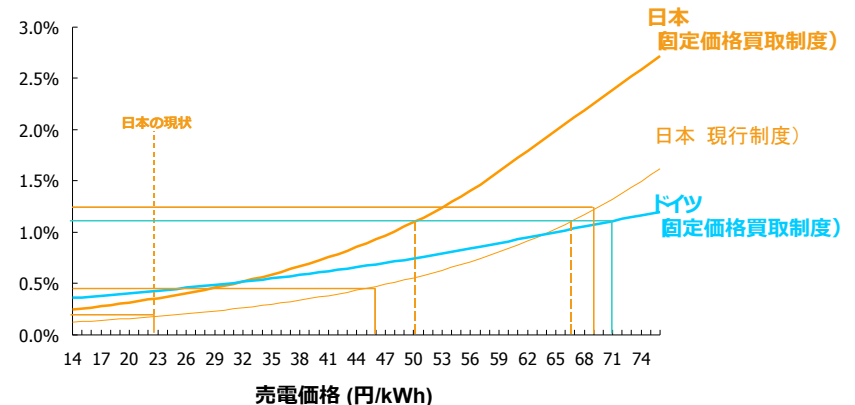
このような研究成果は、温暖化対策における政策を立案、実施するときに役立ちます。また消費者のエネルギー消費行動を分析した結果は、消費者にフィードバックすることにより、省エネ行動を誘発することが期待できます。

連絡先： 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 環境システム学専攻
吉田好邦(環境経済システム学研究室) <y-yoshida@k.u-tokyo.ac.jp>



応用一般均衡モデルによる経済システムのPC上への再現。環境税の経済影響や温暖化対策効果をシミュレーションする。

単年普及率



太陽光発電の普及シミュレーション。固定価格買い取り制度による普及可能性の検討結果。